

# 教育シンポジウム

## 「今、TEACCH の視点から共生の初等教科教育を考える」

日時：2023 年 8 月 25 日（金）9:00~14:20

会場：川崎医療福祉大学 4603 講義室

### プログラム

#### 〈午前の部〉

9:00~9:05 開会の挨拶 大会長 小野寺昇

#### 来賓の紹介

9:10~10:10 TEACCH 講演

社会連携センターTEACCH Autism Program, 医療福祉学科

諏訪利明「なぜ TEACCH なのか—TEACCH の考え方—」

小田桐早苗「通常級における ASD 児童を念頭においた工夫

—どのように TEACCH をいかせるか—」

10:10~10:20 休憩

10:20~11:10 各教科の発表①

1. 国語科 橋本美香「視覚情報を用いた和歌教材の開発  
—古今和歌集 169 番歌を題材として—」
2. 国語科 黒江理恵「児童の自主的な読書を促す多読教材の開発」
3. 社会科 田並尚恵「「風水害への備え」を考えるワークシート  
—第 4 学年「社会科」教材—」
4. 社会科 竹中理香「小单元「世界とつながる地域」の教材化  
—総社市の外国人住民と多文化共生の取り組みから—」
5. 算数科 兵藤史武・長谷川光未・須谷弥生「除法の概念理解を助けるアプリの開発」

11:10~11:20 休憩

11:20~12:10 各教科の発表②

6. 理科 西田裕明「アニメーションを用いた小学校理科「水の循環」の教材開発  
—子どもの興味をひきつける地域素材を用いて—」(VOD)
7. 理科 渡邊佳代「小学校理科におけるビジュアルプログラミング教材の開発  
—通常学級における ASD 児を含む授業を想定して—」
8. 理科 竹内雅貴「時空間的推移現象を理解するためのタイムラプス動画を活用した  
教材の提案—小学校第 5 学年「メダカのたんじょう」を例に—」
9. 家庭科 合田喜賢「昔と今の住まいの比較を通した「住まいの快適さ」を学ぶ教材の  
提案—倉敷市における歴史的建造物を活用して—」

10. 家庭科 青木孝文「TEACCHプログラムと性格特性的「強み」を活用した調理実習の教材の提案」

**12:10～13:10 昼食休憩**

〈午後の部〉

**13:10～14:00 各教科の発表③**

11. 音楽科 田中順子・須谷弥生「TEACCHの視点を取り入れた音楽づくり「自由即興」教材の提案—子どもの自己発見・自己肯定を目指して—」(VOD)
12. 音楽科 西脇藍・須谷弥生「倉敷市児島を舞台とした能「藤戸」の鑑賞教材の開発—パワーポイントを用いたデジタル紙芝居を中心に—」
13. 図画工作科 尾崎公彦「廃材を利用した工作教材の提案—児童発達支援センターでの実践を手がかりとして—」
14. 体育科 後藤大輔「自閉スペクトラム症児がいる小学校通常級を想定としたマット運動教材の提案—TEACCHの視点に焦点を当てて—」
15. 外国語(英語)科 佐藤大介「ユニバーサルデザインの視点から考える—小学校英語指導のためのICT活用に関する提案—」

**14:00～14:15 コメント**

倉敷市教育委員会 学校教育部 部長 根岸正治 様

倉敷市教育委員会 指導課 特別支援教育推進室長 城井田成美 様

**14:15～14:20 閉会の挨拶** 総合教育センター長 宮川健

主催：川崎医療福祉大学 総合教育センター教職課程部門

共催：川崎医療福祉大学 社会連携センターTEACCH Autism Program

後援：川崎医療福祉学会